



楓の誉

R4.7.22(第4号)
文責: 瀨上 佳宏

草を見ずして草をとる

本日で令和四年度の前期前半が終了し、夏季休業日(夏休み)に入ります。一旦は沈静化していた新型コロナウイルス感染症は、再び増加し、「第七波」の感染者数は、過去最高を更新しています。教育活動と感染防止対策の両立の難しさを痛感している毎日ですが、夏季休業期間が感染拡大防止に一役かってくれることを願うばかりです。

ところで、園芸(もはや農業)が趣味の私は、教育のあり方をつい農業と重ねて考えてしまう習性があります。夏季は、作物がぐんぐん成長し、豊かな実りをもたらす時期である一方、雑草も負けじと繁茂するので、今の時期、草取りや草刈りはとても大変です。江戸時代の農学者、宮崎安貞は著書『農業全書』の中で、次の言葉を紹介しています。

上農は草を見ずして草をとり、中農は草を見て草をとる、下農は草を見て草をとらず。

「上農は草を見ずして草をとる」とは、知恵と技術を兼ね備えた農家は、雑草がまだ見え始める前に除草、つまり「中耕」をするということを書いてあるのだと思います。雑草のすべてが害だとは言いませんが、作物の肥料を横取りし、大きくなれば日光を遮ったり、風通しを悪くしたりする雑草を、「いじめ」や「学校の荒れ」等の生徒指導上の諸問題に例えるな

ら、生徒指導においても、農業の「中耕」に当たる取組を積極的に仕組んでいくことが、諸問題への対策や未然防止になるのでしょうか。それでは、どんな取組が「中耕」になるのでしょうか。起きそうな問題を見越して細かく校則を定めておくこと…? ちよつと違う気がします。それなら、体育大会や学習発表会、集団宿泊教室や修学旅行などの学校行事は…? こちらには事前・事後の取組や当日の活動など様々な場面で、「中耕」に当たる要素がたくさん含まれているように思います。

十九日から二十日にかけて実施した一年生の集団宿泊教室は、新型コロナウイルスの再拡大や大雨の天気予報の中、いわば「強行」をしました。しかし、帰校後、団長の 高橋 教頭から、「風呂の入り方のマナーが悪かった最初の班に、厳し目に指導したら、後の班のマナーは各段に良くなった」という一例を聞きました。おそらくこのような学びが、集団宿泊教室のいろんな場面であつたことでしょう。

今回の集団宿泊教室は、「㊦㊧㊨」を頭文字にしたスローガンの一つ「㊦㊧㊨」と思い出に残る」を超えて、今後の中学校生活につながる有意義なものだったと思つています。最大の配慮をしながら引率した先生方、更には㊦仲間を信じ、㊦協力して活動した一年生に感謝しているところです。もし今後、集団宿泊教室を起点に陽性者が出た場合、感染防止対策の視点から、校長は大きな判断ミスをしたことになりそうです。そのことに対するご批判は、真摯にお受けしたいと思つています。



生徒たちで進行しました
(集団宿泊教室から)

なお、「校則」については、昨年度六月発行の楓の誉(第4号)でも言及していますので、本校HPでご参照いただければ幸いです。

夏休みは何のために



明日からの夏休み。「休」と付くぐらいですから、休養が必要なのは、しつかりリフレッシュするのが大原則です。しかし、学校的には「夏季休業日」です。授業を休むのであつて、授業を休むからこそ学べることで、成長できることもたくさんあるのではないのでしょうか。

先日の合志市校長会議において、中島 教育長から、「夏休みは何のために」の答えとして「自分で考え、計画し、行動し、反省するため」とお話しがありました。以前の学校便りにも書いていた「人が(とりわけ教師が)見ていないところでもきちんとやる生徒」に自分がないかどうかが、検証するチャンスでもあります。

先日、夏休み計画を立てている三年生の学活の様子を見ました。一日当たりの学習時間が、五百四十分(九時間)や六百分(十時間)という生徒も結構いて、進路選択を控えた三年生、さすがです。ただし、その時間には塾や宿題の時間も含まれているそうですから、私(校長)としては、それ以外のプラスアルファの時間を大切にしたいと思つています。

また、不安や悩みは自分で抱え込む必要はありません。SOSを発信することも忘れないでほしいと思つています。



学校HPの
QRコード